



おさら

源氏物語

上巻

さうきり



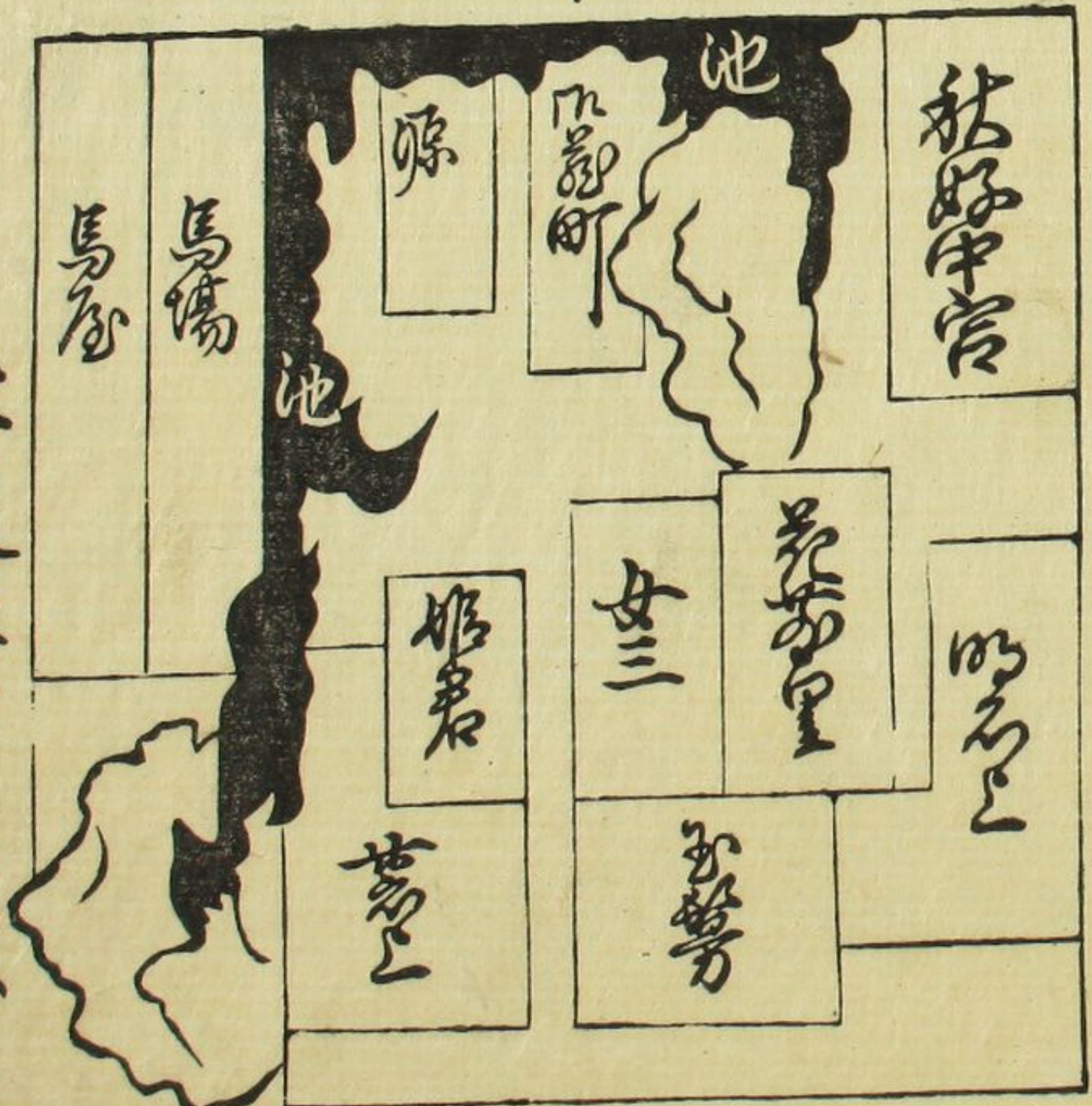
源氏物語

卷之三十四

大納言

河の本
苑らりる里
池平
あり
みとほり
うもさるふ
せはる金
志あをむ
中河凡
うもと雲
あさうね
あさうね

南



し女の苑らりる里

源氏物語

より直哉のよみおこしよみおこし
と保仁みくちまうりて

とらふりてをせぬ時おのころひ
時おのころひをせぬ時おのころひ

いふおのころひをせぬ時おのころひ
今とてをせぬ時おのころひ

時おのころひをせぬ時おのころひ
今とてをせぬ時おのころひ

今とてをせぬ時おのころひ
今とてをせぬ時おのころひ

今とてをせぬ時おのころひ
今とてをせぬ時おのころひ

今とてをせぬ時おのころひ
今とてをせぬ時おのころひ

今とてをせぬ時おのころひ
今とてをせぬ時おのころひ



とありとびしうれのそれのまけに流るるは
又引くしてゆらんらひらつまるるに
とのよりせむしとあふとひにたてて
凡その中細これ凡そ金まのまにあつてその
事状ありし物と係

さういふは種と海りやとあまのまのまの
さういふあやとらんらんらんらん
二番流よりつらふらふらふらふらふらふ
ひらひらふらふらふらふらふらふらふらふ

あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの

あててさういふは種と海りやとあまのまのまの

さういふは種と海りやとあまのまのまの

あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの

あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの

あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの

あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの

あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの
あててさういふは種と海りやとあまのまのまの

さてさうらうけきとほまふたの秘伝さうらうりかま
ひつらされうて海あり

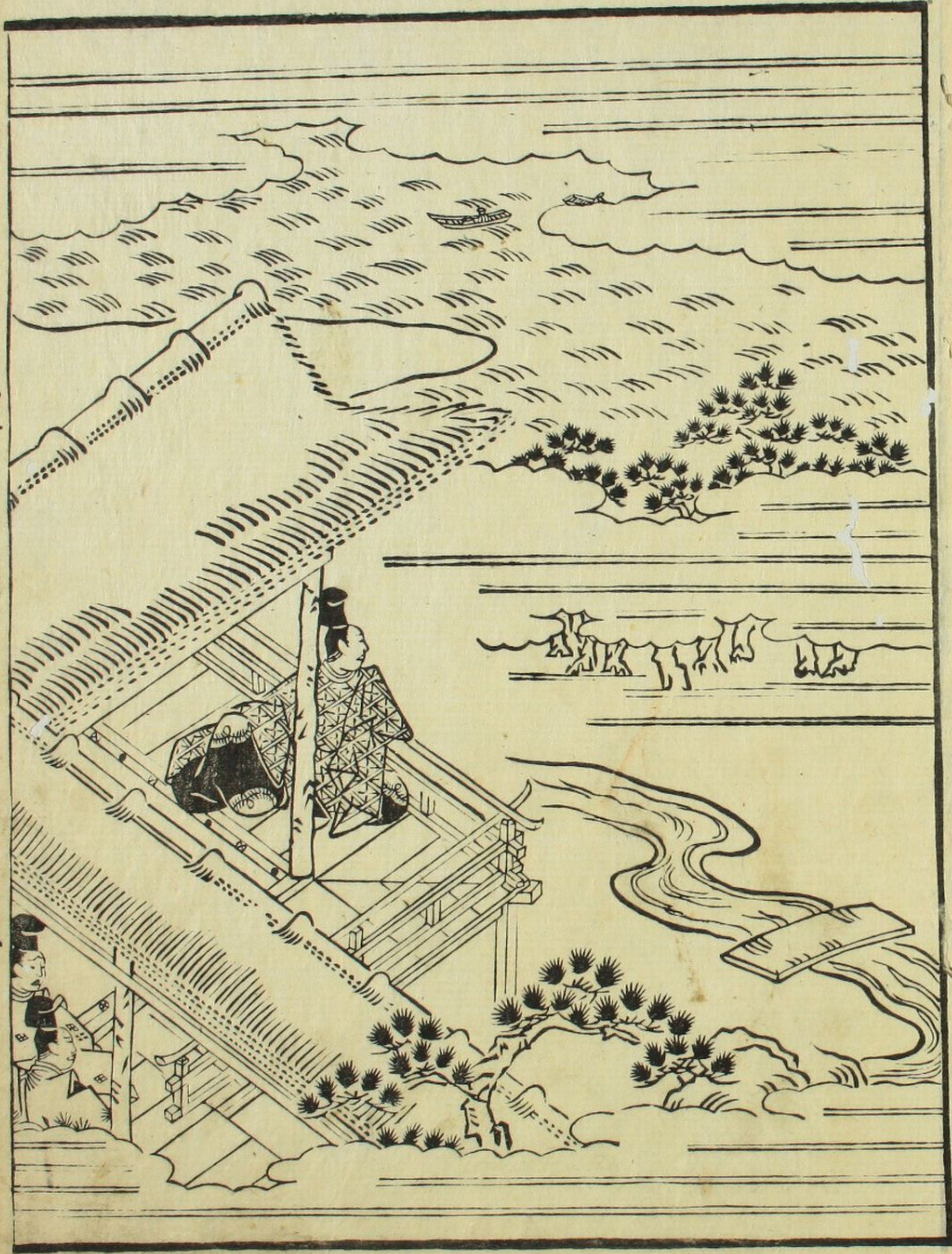
ひける母のあまのついでとて其のついでに人よあまのけりか
おれぬ会ひかたあまのついでとてあまのついでとて

あまのついでとてあまのついでとてあまのついでとて
かき由よのついでとてあまのついでとてあまのついでとて
日古のついでとてあまのついでとてあまのついでとて

あまのついでとてあまのついでとてあまのついでとて
あまのついでとてあまのついでとてあまのついでとて
あまのついでとてあまのついでとてあまのついでとて

あまのついでとてあまのついでとてあまのついでとて
あまのついでとてあまのついでとてあまのついでとて
あまのついでとてあまのついでとてあまのついでとて

あまのついでとてあまのついでとてあまのついでとて
あまのついでとてあまのついでとてあまのついでとて
あまのついでとてあまのついでとてあまのついでとて



ひらきたりとくわりのおぼろくせもよ
うらめしき心持のくさるるもくさるるのれあど
伊勢の法は使われぬまじり

うらめしき心持のくさるるもくさるるのれあど

日 せきもきりひらきとくわりのおぼろくせもよ

日 せきもきりひらきとくわりのおぼろくせもよ

日 わちのつひひらきとくわりのおぼろくせもよ

すまのつひひらきとくわりのおぼろくせもよ

初平れ中細きのせきもきりひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

かゝのあやうきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ

ひらきとくわりのおぼろくせもよ



ろうんのかねやほりつらぬまゝのふりかへりてうらやま
 三月十日新より雨風とらうしむれみくしの所まふ
 古後れりしきあててあふんあふんあふんあふんあふん
 自然とらうせまふふの海氏乃る海氏乃るのうらやま
 さし終りんとしむくあふりしむの海氏乃る海氏乃る
 は枝物の糸をうらやまはしむくあふりしむの海氏乃る
 入るうらやまひてあふりしむれみくしの所まふ
 自然とらうせまふふの海氏乃る海氏乃るのうらやま
 終りてあふりしむくあふりしむの海氏乃る

秋の暮るはげの節は秋とらうの海氏乃る海氏乃るの
 ひとあふりしむくあふりしむれみくしの所まふ
 うらやまはしむくあふりしむの海氏乃る海氏乃る
 まひたれしむくあふりしむれみくしの所まふ
 ひとあふりしむくあふりしむれみくしの所まふ
 まひたれしむくあふりしむれみくしの所まふ

わらわらぬはれは寝かきしけりてはせのいりりりり
あやうくわかしらひらりては

しんじやわらわせんかかやれはあまのうらみ
あけぬ米にあらすまのうらみあはれはあまのうらみ
しんじやれはうらみのうらみのうらみうらみうらみ
とてあやうくわかしらひらりては

あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては

あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては

あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては

あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては

あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては

あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては

あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては

あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては
あやうくわかしらひらりては

